

● 最近の県内経済

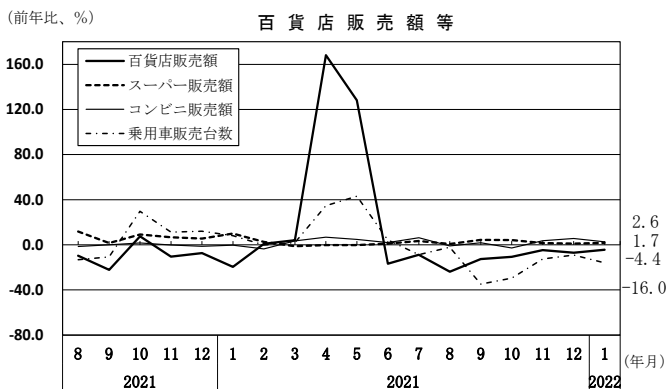
(2022年1月を中心として)

今月の概要

県内景気は、新たな変異株の感染急拡大により、個人消費を中心に停滞している。

1 個人消費

昨年末以降、新たな変異株の感染急拡大により、対面型サービスを中心に停滞しているとみられる。



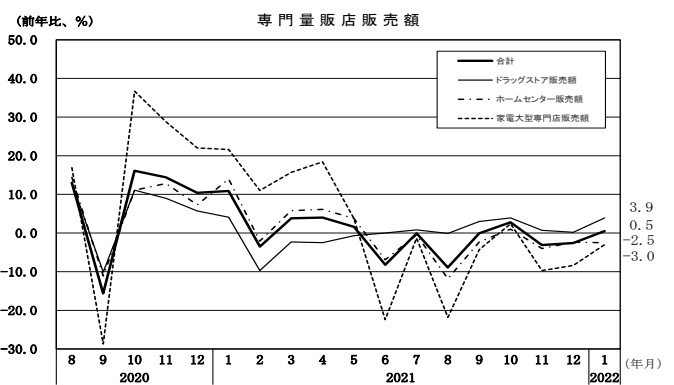
(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

個人消費は、飲食・サービス・イベント関連を中心に、持ち直しの動きがみられていたが、昨年末以降、新たな変異株の感染急拡大により、対面型サービスを中心に停滞しているとみられる。

1月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）は、百貨店が119億円で前年比4.4%減（8か月連続の減少）、スーパーは973億円で同1.7%増（8か月連続の増加）となった。また、コンビニ販売も522億円で同2.6%増と、3か月連続の増加となった。

乗用車販売は、前年比16.0%減と7か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車（同16.2%減）は5か月連続の減少となったほか、小型車（同4.5%減）、軽乗用車（同23.6%減）は、いずれも8か月連続の減少となった。

スーパーやコンビニにおいては、巣ごもり需要が堅調に推移した一方で、原材料価格高騰の影響がみられた。



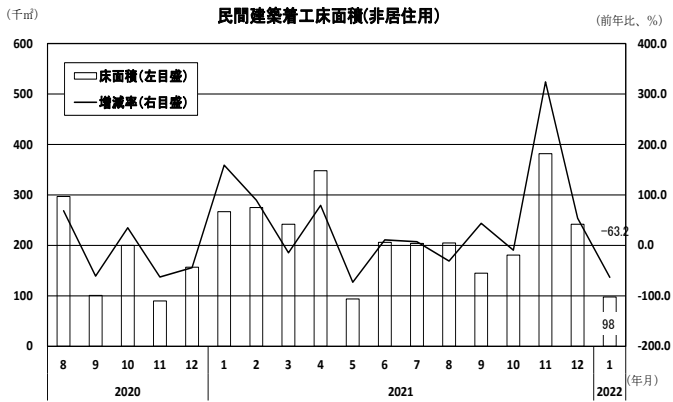
(資料) 経済産業省

1月の専門量販店販売額は、752億円で前年比0.5%増となった。内訳をみると家電大型専門店が207億円で同3.0%減（3か月連続の減少）、ドラッグストアが378億円で同3.9%増（5か月連続の増加）、ホームセンターが166億円で同2.5%減（3か月連続の減少）となった。

関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、12月〈39.4〉、1月〈37.1〉、2月〈35.7〉で推移している。

2 設備投資

基調として持ち直している

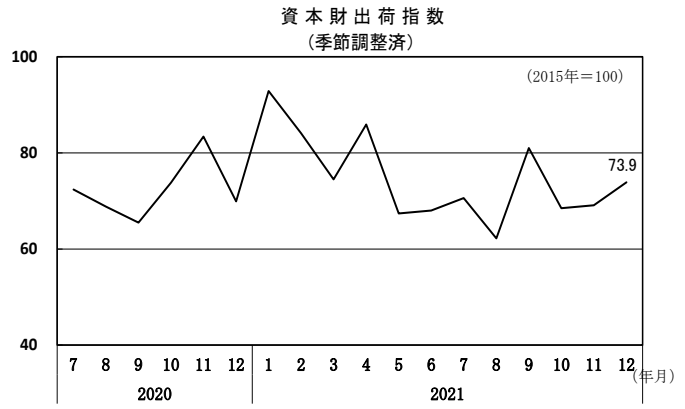


(資料)国土交通省

旺盛な半導体関連需要やEコマース関連需要に加えて、コロナ禍で見送られた案件の実行も幅広い業種でみられる。

1月の民間建築着工床面積(非居住用)は、98千㎡で前年比63.2%減となった(5か月後方移動平均では前年比28.7%増)。

用途別にみると、工場及び作業場、学校の校舎、病院・診療所が増加したものの、事務所、店舗、倉庫、はいずれも減少した。

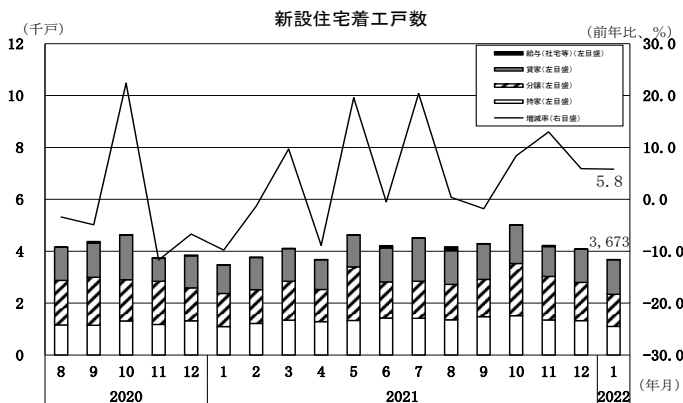


(資料)埼玉県

12月の資本財出荷指数(季節調整済)は73.9で、前月比6.9%増と2か月連続の増加となった(5か月後方移動平均では、前年比0.7%増)。

3 住宅建設

持ち直している



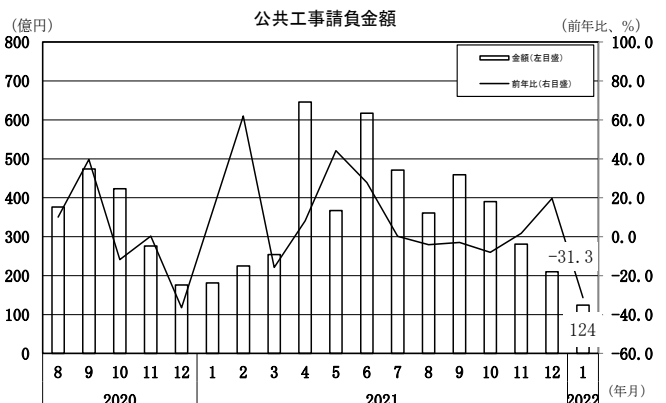
(資料)国土交通省

コロナ禍で低調だった2020年の反動増に加え、郊外で広い家を求める動きもあって、2021年入り後持ち直している。

1月の新設住宅着工戸数は、3,673戸で前年比5.8%増と4か月連続の増加となった(5か月後方移動平均では、6.1%増、9か月連続の増加)。利用関係別にみると、分譲マンション(180戸)が同37.7%減となったものの、持家(1,102戸)が同0.7%増、貸家(1,332戸)が同21.3%増、分譲一戸建(1,033戸)が同5.6%増となった。

4 公共工事

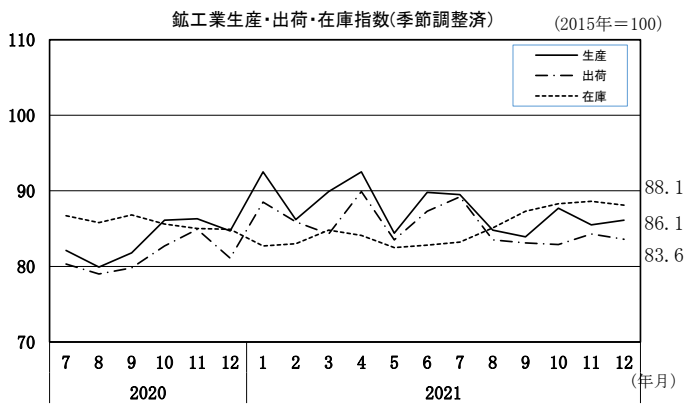
高水準にあるものの、このところ弱含んでいる



(資料)東日本建設業保証株式会社

政府の2020年度補正予算において、大幅上積みされた公共事業関係費の一巡から弱含んでいる。

1月の公共工事請負額は、124億円の前年比31.3%減となった(5か月後方移動平均でも前年比4.3%減)。発注者別でみると、地方公社は増加したものの、国、独立行政法人等、都道府県、市区町村は減少した。



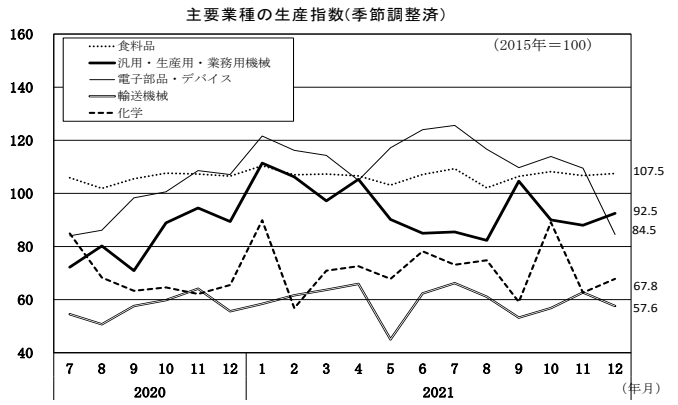
(資料)埼玉県

中国の景気減速を受けた輸出の鈍化や半導体不足を受けた自動車の減産の影響を受けて、一進一退の動きとなっている。

12月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、86.1で前月比0.7%上昇(2か月ぶりの上昇)。生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、食料品加工機械)、情報通信機械(カーナビゲーション、カーオーディオ)などが低下したが、化学(医薬品、化粧品)、電子部品・デバイス(混成集積回路、線形半導体集積回路)などが上昇した。

出荷指数(同)は、83.6で同0.8%低下(2か月ぶりの低下)。業務用機械(パチンコ、医療用機械器具)、化学(医薬品、化粧品)などが上昇したが、輸送機械(乗用車、自動車エンジン)、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、食料品加工機械)などが低下した。

在庫指数(同)は、88.1で同0.6%低下した(7か月ぶりの低下)。電気機械(クッキングヒーター、食器洗い乾燥機)、電子部品・デバイス(混成集積回路、サーミスタ)などが上昇したが、金属製品(アルミエクステリア、スチール製缶)、輸送機械(乗用車)などが低下した。



(資料)埼玉県

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、107.5で前月比0.7%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

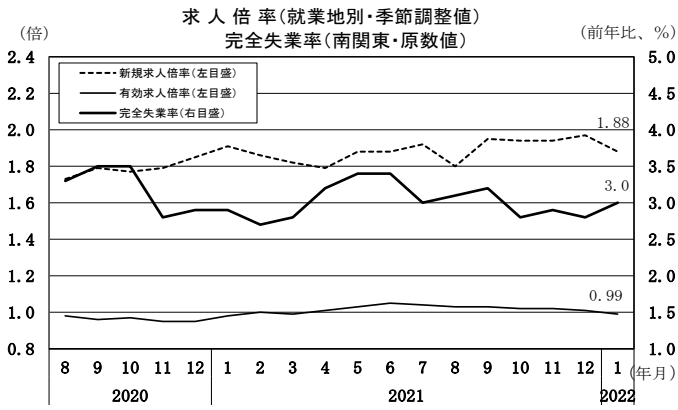
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、92.5で同5.1%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は、84.5で同22.8%低下し、2か月連続の低下となった。

◆ 輸送機械(同)は、57.6で同8.1%低下し、3か月ぶりの低下となった。

◆ 化学(同)は、67.8で同8.3%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

6 雇用情勢 弱い動き



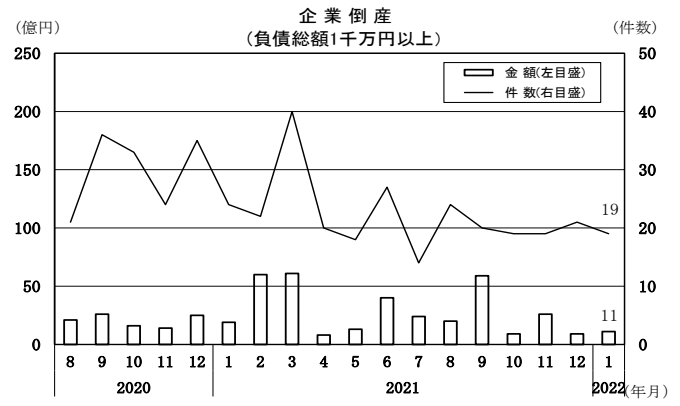
(資料)厚生労働省、総務省

2020年春以降のコロナ感染拡大に伴い、対面型サービスを中心に経済活動が抑制された影響から、弱い動きが続いている。

1月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、0.99倍で前月比0.02ポイント低下した(2か月連続の低下)。また、新規求人倍率(同)は、1.88倍で前月比0.09ポイント低下した(3か月ぶりの低下)。

完全失業率(南関東、原数値)は、3.0%で前年同月比0.1ポイント上昇した(前年同月比2か月ぶりの上昇)。

7 企業倒産 一進一退



(資料)帝国データバンク

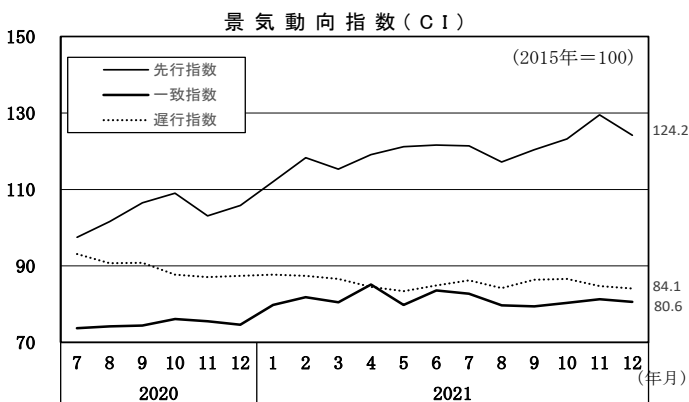
コロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。

1月の企業倒産件数は、19件で前年同月比5件の減少となった。負債総額は11億円で同8億円の減少となった(5か月後方移動平均では、件数は前年比35.5%減、金額は14.3%増)。

業種別にみると、サービス業が最多で8件、次いで建設業が5件、小売業が3件と続いている。主因別では、販売不振が20件となっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) 足踏みを示している



(資料)埼玉県

12月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、80.6で前月比0.7ポイント低下し、3か月ぶりの低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、124.2で同5.3ポイント低下し、4か月ぶりの低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、84.1で同0.6ポイント低下し、2か月連続の低下となった。